

8の成果目標と分科会等での審議事項

1. 社会を生き抜く力の養成

成果目標1（「生きる力」の確実な育成）**《初等中等教育分科会、スポーツ庁（健やかな体関係）》**

変化の激しい社会を生き抜くことができるよう、「生きる力」を一人一人に確実に身に付けさせることにより、社会的自立の基礎を培う。また、一人一人の適性、進路等に応じて、その能力を最大限伸ばし、国家及び社会の形成者として必要な資質を養う。

（確かな学力）世界トップの学力水準を目指す。

（豊かな心）豊かな情操や、他者、社会、自然・環境と関わり、自らを律しつつ共に生きる力、主体的に判断し、適切に行動する力などを持つ子どもを育てる。

（健やかな体）今後10年間で子どもの体力が、体力水準の高かった昭和60年頃の水準を上回ることを目指すなど、生涯にわたってたくましく生きるために必要な健康や体力を養う。

成果目標2（課題探求能力の修得）**《大学分科会》**

知識を基盤とした自立、協働、創造の社会モデル実現に向けて、「生きる力」の基礎に立ち、「課題探求能力」を身に付けられるよう、学生の主体的な学びを確立する。

このため、十分な質を伴った学修時間を欧米並みの水準にすることや学修環境の整備などによる大学教育の質的転換などを図る。

成果目標3（生涯を通じた自立・協働・創造に向けた力の修得）**《生涯学習分科会》**

社会を生き抜く上で必要な自立・協働・創造に向けた力^{*}を生涯を通じて身に付けられるようにする。

このため、個々人の直面する課題や社会の多様な課題に対応した質の高い学習機会等を充実するとともに、学習成果が広く社会で活用されるようにする。

成果目標4（社会的・職業的自立に向けた能力・態度の育成等）**《生涯学習分科会、大学分科会》**

社会的・職業的自立の基盤となる基礎的・汎用的能力を育成するとともに、労働市場の流動化や知識・技能の高度化に対応し、実践的で専門性の高い知識・技能を、生涯を通じて身に付けられるようにする。

このため、キャリア教育の充実や、インターンシップの実施状況の改善、就職ミスマッチの改善に向けた教育・雇用の連携方策の強化を図る。

2. 未来への飛躍を実現する人材の養成

成果目標5（社会全体の変化や新たな価値を主導・創造する人材等の養成）

《初等中等教育分科会、大学分科会》

「社会を生き抜く力」に加えて、卓越した能力を備え、社会全体の変化や新たな価値を主導・創造するような人材，社会の各分野を牽引するリーダー，グローバル社会にあって様々な人々と協働できる人材，とりわけ国際交渉など国際舞台で先導的に活躍できる人材を養成する。

これに向けて、実践的な英語力をはじめとする語学力の向上，海外留学者数の飛躍的な増加，世界水準の教育研究拠点の倍増などをを目指す。

3. 学びのセーフティネットの構築

成果目標6（意欲ある全ての者への学習機会の確保）

《初等中等教育分科会、大学分科会》

様々な困難や課題を抱え支援を求めている者に対して，生涯を通じて多様な学習機会を確保する。また，能力と意欲を有する全ての者が中等・高等教育を受けられるようにする。

これを通じて，経済的，時間的，地理的制約等による教育格差を改善する。

成果目標7（安全・安心な教育研究環境の確保）

《初等中等教育分科会、大学分科会》

子ども・若者等が安全・安心な環境において学習・研究できるようにするため，学校等施設の耐震化，防災機能強化等の教育研究環境の整備を図るとともに，自らの安全を守るための能力を身に付けさせる安全教育を推進するなど，学校等における児童生徒等の安全を確保する。

4. 絆づくりと活力あるコミュニティの形成

成果目標8（互助・共助による活力あるコミュニティの形成）

《生涯学習分科会、大学分科会（COC関係）》

個々人の多様な学習活動の実施や参画を通じ，家庭や地域のネットワークを広げ，互助・共助による活力あるコミュニティを形成する。

特に，学校や社会教育施設等を地域の振興・再生に貢献するコミュニティの中核として位置付け，多様なネットワークや協働体制を整備し，個々人の地域社会への自律的な参画を拡大する。